

有縁の皆さんでお読み下さい

※この紋章は「法輪」といい、車の輪が回り続けるように未来に向かって永遠に弘められていく仏教を象徴した、世界中の仏教徒共通のシンボルです。

己が身にひきあてて、殺してはならぬ、殺さしめてはならぬ

あなたの「生きる」を支えるお寺

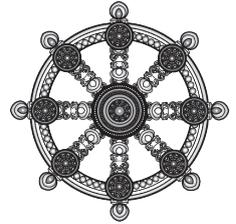
毎月 25 日発行 しょう しき しょう こう

お寺のかわら版

じゆんしょうじほう

純正寺報

# 青色青光 No.339



発行責任者：浄土真宗本願寺派 護法山 純正寺 住職 釋 覚恵 (漢見覚恵)

〒 522-0075 滋賀県彦根市佐和町 3-29 TEL (0749)-22-7888 FAX (0749)-47-4829

メールアドレス :purity-temple.since1499@nifty.com

八月十一日(日)

午前十時より正午まで

## 歡喜会

勤行『仏説阿弥陀經』

午後一時半より三時まで

## 物故者追弔会

勤行『正信念仏偈』

ご法話 純正寺衆徒

## 釋 值慧 師

美馬 ひろみ

お昼にお弁当が必要の方は、午前の法要前に受付で実費(五百円)を添えてお申し込みください。

8月25日(日)10:00~12:00 13:30~15:30

## こんき常例布教

法話 米原市正行寺

藤浪 正明 師

YouTube 純正寺チャンネル



LINE 純正寺公式アカウント



純正寺公式ホームページ



facebook 常朝事チャンネル



純正寺の法要は「YouTube」で、常朝事は「facebooklive」で、それぞれ生配信でも録画でもご参拝・お聴聞いただけます。

# 住職法話

## 我闘如星 われかくのごとくきく

### 世のなか安穩なれ仏法ひろまれ

夏に思う、戦争と念仏者の生き方

#### 毎日起こる殺し合い

毎日のインターネットやテレビのニュースでは、世界中で起こっている戦争や紛争の話題が報道されない日は一日もありません。イスラエルとパレスチナの戦争では、ガザ地区の人たちが毎日爆撃で殺されていますし、ロシアによるウクライナへの軍事侵攻でも日々たくさんの方の命が奪われています。血まみれの子ども達の泣き顔を見るたびに、胸がつぶれる思いです。

多くの国や地域で起こっている戦争や紛争には、宗教が関わっていることが少なくありません。パレスチナ問題だけでなく、イエメン内戦、シリア内戦、アフガン内戦、リビア内

戦など、どの内戦紛争もみな宗教がらみです。違う宗教同士や同じ宗教同士で、互いの正義を盾に命の奪い合いをしているのです。ところで、私たちも仏教という宗教の信者ですが、私たち仏教徒は戦争に対してどのような立ち位置にあるのでしょうか。

#### 仏教徒は殺さない

初期仏教経典の一つ『法句経（真理のことば・ダンマパダ）』には、人間そのものへの深い反省や生活の指針が、お釈迦さまの言葉として風格ある簡潔な句で表されています。その中、第十章「暴力」には「すべての者は暴力におびえ、すべて

の者は死をおそれる。己が身をひきくらべて、殺してはならぬ。殺さしめてはならぬ」すべての者は暴力におびえる。すべての生きものにとつて生命は愛しい。己が身にひきくらべて、殺してはならぬ。殺さしめてはならぬ」とあります。

ての者は死をおそれる。己が身をひきくらべて、殺してはならぬ。殺さしめてはならぬ」すべての者は暴力におびえる。すべての生きものにとつて生命は愛しい。

己が身にひきくらべて、殺してはならぬ。殺さしめてはならぬ」とあります。すなわち、仏教徒はいかなる理由があつても人の命を奪つてはならないのです。

次に、浄土真宗の根本経典である『仏説無量寿経』の下巻には「仏の歩むところ、あらゆるところは、あらゆる人々はみな、その教えの尊さを思わない者はいない。人々のこころは、豊かに安らかであり、兵士や武器を全く必要としない世界である（兵戈無用）」とあります。

このように、戦争を人類最悪の人殺しの行為、罪悪として「しない、させない、許さない」という視点が、

仏教徒の戦争に対する大切な立ち位置ということになります。

#### 戦後にも続く後遺症

戦争は、戦禍に人の命を奪うだけでなく、戦後にも長くその影響が続きます。純正寺は、今もなお戦争の影響を受け続けている稀な寺院の一つです。

第二次世界大戦最末期の昭和二十年七月、戦局が極めて厳しくなってきた中、国は爆撃・空襲を受けた際に火災発生時の延焼による被害をできるだけ食い止めるために、建物を強制的に取り壊すことができることを防空法に定めていました。そのような中、純正寺のある彦根市にも、この年の春頃から市内に爆撃が何度かあつたのです。

そこで、今後爆撃があつた際に標的になると思われ

る市内五ヶ所の大きな建物の周辺の建物を疎開（強制撤去）させることが決められました。その五ヶ所の大 きな建物の一つである造幣局・印刷局の建物に隣接していたのが、当時の純正寺の本堂・庫裡をはじめとする全施設でした。

そして、昭和二十年七月八日、当時の滋賀県知事の名前で純正寺に対し、六日以内にすべての建物を撤去するようにという趣旨の「譲渡令状」が送り付けられたのです。令状ですから、拒否することは罪になります。当時の住職は私の祖父でしたが、戦争の嵐に飲み込まれた純正寺は、すべての寺院施設を強制的に取り壊されたのでした。そして、一ヶ月後に日本は敗戦を迎えました。こうして純正寺は、敗戦とともに寺院の全機能を失ったのでした。

戦後の純正寺は、国から

の保障もほとんどなく、住職と家族はバラバラに親戚の寺院に疎開したり、町工場の片隅の四畳半の部屋を間借りしたりで二年ほどが経ちました。その間に、純正寺の境内地は売却されて、そのお金で借地の上に平屋の民家を購入。そこを仮本堂にして寺院活動を再開しました。六畳二間の本堂にはご門徒の参拝はほとんど叶わず、いつしか純正寺の活動は住職からご門徒宅への「月参り」という家庭訪問のみになりました。

四十年後、ようやく新しい土地を購入することができ、現在の本堂や庫裡が復興されましたが、半世紀近くお寺参りの習慣を失われたご門徒の中には、今もお寺参りをされない方が少なくなく、お聴聞を通して教えない結果、浄土真宗の信仰も失われつつあるように思

います。戦争という大罪は、私たちから大切なことを今も奪い続けているのです。

### 真の念仏者であれ

しかし、かつて私たちの宗派（浄土真宗本願寺派）は、戦争に反対するどころか積極的に協力し、多くの門徒や僧侶を戦地へと送り出しました。平和な時には「戦争反対」と言っていた人も、国が一旦戦争状態になつてしまうと手のひらを返したように戦争に賛成する。なぜそうなるのか

かというと、浄土真宗を本当にいからではないでしょうか。親鸞聖人は、ご門徒に宛てたお手紙の中で、お浄土に往生すると疑いなく信じてお念仏申す者は「世のなか安穩なれ、仏法ひろまれ」と思いながら生きることが肝要であると述べられています。すなわち、念仏者は人間のあらゆる

痛み悲しみ苦しみが無くならないように、お念仏が弘まるようにと思いつながら生きていくことが大切だと言われているのです。ですから、多くの人を悲しませ苦しませる戦争という安穩ではない状態を、念仏者は認めることも許すこともできません。ましてや、協力することなどもつてのほかです。

今、私たちの暮らす日本の周辺には、いつ戦争状態になつてもおかしくない国々がたくさんあります。ということは、戦争は「対岸の火事」では決してないのです。ですから、まだ戦争の状態でない平常の「今」から、やがて来るかもしれない戦争状態の中でも「ノー」と言える真の念仏者であろうと意識し続けておかなければならないと、純正寺にとって忘れられない夏を迎えると、強く強く思うのです。



# 純正寺8月の皆の宗サンガ

サンガ(僧伽)とは、利害関係を超えた、互いに支え合う、安心できる本当の人のつながり「お念仏の家族」をあらわしています。純正寺のすべての活動は、あなたにも仏縁が整って、まことの同朋(とも)の出会いが広がっていくことを願い、運営されています。



今月のエコキャップ 一、六五二、六三三 個

暑さ本番の七月中に、皆さんのからお預かりしたペットボトルのキャップの数は一一、七三九個。ありがとうございました。

## キッズサンガ「ほとけの子ども会」

10日(土)・24日(土)  
10:00~12:00  
就学前・小・中学生対象

『らいはいのうた』のお勤めの後、仏典童話の読み聞かせと楽しい遊びタイムです。

## ゆっくり学ぼう家「寺子屋」

4日(日)・25日(日)  
16:00~18:00  
小学生・中学生対象

教科書に沿った問題集や宿題、自主勉や読書に取り組みます。休憩時には、おやつもあり。

## みんなの食堂ビハーラ

8日(木)・22日(木)  
17:00~19:00  
年齢・性別は問いません

子どもからお年寄りまで、誰でも参加できる楽しい食事と学習の時間。事前にお申し込みください。

## 世のなか安穏なれ「ビハーラ彦根」

18日(日)  
18:00~20:00  
年齢・性別は問いません

参拝者の提起や質問を手がかりに、車座になって聴き合いながら、ビハーラの心を学びます。

## ヨガ風ストレッチ「びはーら体操」

6日(火)・20日(火)  
10:20~11:30  
年齢・性別は問いません

お香とインド音楽の中でのヨガ風ストレッチで、強くて柔らかな身体と心を作りましょう

## 「月例法話座談会」

21日(水)  
14:00~16:00  
年齢・性別は問いません  
日常の「何故？」を通して、お念仏に生きる尊さと確かさを座談会形式で感じ学びます。

## 「歓喜会」「物故者追悼法要」

11日(日) 10:00~15:00  
年齢性別は問いません

お浄土に往生されたご先祖がくださる仏法聴聞のご縁です。ご法話は、純正寺衆徒の釋値慧(美馬ひろみ)師です。

## ほとけの子ども会「サマースクール」

19日(月)~20日(火)  
小学生・中学生対象

ほとけの子ども会の、夏休みの本堂お泊まり会。七宝焼き教室や仏典アニメ上映、流しそめんなど、楽しみ盛り沢山です。

## みんな法友こんき常例布教

25日(日)  
10:00~12:00.13:30~15:30  
年齢・性別などは問いません  
所属寺の枠を超えて、法のお友が法座です。ご法話は、米原市正行寺の藤浪正明師です。

## 住職が聴きます「よろず相談」

随時、年齢性別は問いません  
生きることが辛くなる前に、早めに気軽に相談下さい。  
相談予約専用電話番号は、090-7874-2849  
相談予約専用メールアドレスは namo-yorozu@docomo.ne.jp

## 清々しい朝のおつとめ「常朝事」

年中毎朝 6:00~6:50  
年齢・性別など問いません  
『正信念仏偈』と『和讃』の繰り読み。『御文章』の拝読と住職の法話があります。Facebookでライブ配信もしています。

お知らせ  
本堂入り口に設置された名札。参拝された時に、ご門徒がより親しくなればと、門徒総代さんが作って下さいました。五十音順に吊り下げさせていただきます。お参りの際にぜひご使用下さい。